

# 達磨よ、ソウルに行こう

2008(平成20)年3月8日鑑賞〈ホクテンザ1〉

★★★★



監督・脚本=ユク・サンヒョ/出演=チョン・ジニョン/シン・ヒョンジュン/チョン・ハニョン/ハン・ヘジン/キム・ジヨン/パク・コンテ/特別出演=パク・シニャン/〈修行僧側〉イ・ウォンジョン/イ・ムンシク/ヤン・ジヌ/〈株式会社大陸開発側〉ユ・ヘジン/イ・ヒョンチョル/キム・ソクファン(エスピーオー配給/2004年韓国映画/100分)

……『達磨』シリーズには2年目のジックスはなく、娯楽性は第1作より向上……？ 仏サマの差押えとはちとバチ当たりだが、やはりこの世はカネがすべて……？ 際立ったキャラと賽銭箱争奪戦のドタバタ劇を楽しみながら、ある「謎解き」にも是非挑戦を！

## 第2作の舞台は……？ 対決のテーマは……？

第1作の400万人動員という大ヒットに気をよくしてつくられた第2作は、舞台が金海市郊外の銀河寺ウナサから大都会ソウルの無心寺に。また僧侶軍団のリーダーが老住職亡き後銀河寺の住職に就任したチョンミョン(チョン・ジニョン)であることに変わりがなく、総勢4人の少数精鋭主義に変更。

第2作で僧侶軍団と対決するのは、無心寺を取り壊して高層マンション(ドリーム・シティ)を建築しようとしている株式会社大陸開発のパク会長(チョン・ハニョン)の下で働いている、部長イ・ボムシク(シン・ヒョンジュン)をリーダーとする4人組のヤクザ。彼らはヤクザ色を極力抑え、エリートサラリーマン風を装っているが、その実体は……？

このように、舞台が変わり、対決のテーマは大きく変わるが、企画の基本テイストは第1作と全く同じ……。

## 僧侶軍団4人組のキャラがより鮮明に！

チョンミョンがソウルへ行くのは亡き住職の遺言によって、ある物をソウルの無心

寺に届けるため。チョンミョンに付き添うのは、第1話にも登場した巨漢の力持ちヒョンガク（イ・ウォンジョン）と元海兵隊員のテボン（イ・ムンシク）の2人。第1話では無言僧ミョンチョン（リュ・スンズ）の役割はあまり大きくなかったが、第2話ではテボンが無言の業をしているため、大切なところで



© 2004KM Culture, All Rights Reserved.

の意思疎通が十分できず、さまざまな珍騒動をひき起こす原因になるが、これが第2話のコメディ性をすごく高めている点に注目！

またこの3人に合流してヤクザ軍団と闘うのが、無心寺に残っていた美男子の僧ムジン（ヤン・ジヌ）だが、彼には大陸開発の女子社員ミソン（ハン・ヘジン）との間で意外な展開が待っているので注目！ 第2話の僧侶軍団はこの4人だが、第1作よりもそれぞれのキャラがより鮮明に！

### 5番勝負から3番勝負に……

第1話では三千拝の1発勝負が3番勝負に変わり、さらに5番勝負(?)に変わっていったが、第2話ではさすがにそんなインチキ勝負ではダメだと覚ったため(?)か、3番勝負に。もっともこれも、「勝負！」とされたフラフープ合戦において、巨体のヒョンガクが首でフラフープを回したのが違反だというヤクザ軍団からのイチャモンがついたため。しかし、2回戦はカラオケ点数合戦、3回戦は何と飲み比べとなったが、その勝敗は……？

このハチャメチャぶりが第2作の特徴で、第1作より娯楽性は格段に向上……？ それにしてもオンナはともかく、僧侶（坊主？）が歌にも強く酒にも強いのは、韓国も日本も同じだと痛感……？

### 韓国の差押え事情は……？

サブプライムローン問題の発生によってアメリカの低所得者層がやっと手に入れた

住宅が次々と差押えられ、競売に付されている映像をよく観たが、韓国では何と、本堂内の仏さままで赤紙が貼られて差押えられていたから、チョンミョン以上に私もビックリ！ これは無心寺の住職が5億ウォン（約5千万円）の借金をしたままトンずらしてしまったため。

今、無心寺に残っているのは老菩薩（キム・ジヨン）と童子僧（パク・コンテ）、そして若いムジンだけだが、数日のうちに寺院は取り壊しになるらしい。それを阻止するためには借金を返さなければならないが、チョンミョンたちにそんな資金が準備できるの……？ その場の勢いで「返してやる！」とタンカを切ったチョンミョンだが、さてその当ては……？

### ロト宝くじで300億ウォン！

チョンミョンが僧侶らしく、法会を開いて信徒たちから寄付金を募ろうとしたのは正論。しかし、ロト宝くじが当たると300億ウォン（約30億円）という宣伝につられて、テボンがそれを買ったのは、「僧侶がバクチをするとは何ゴトか！」とある意味で仏罰モノ……？

ところが、ビギナーズラックとはよく言ったもので、何とそのロト宝くじが当たったというからビックリ！ ところが、喜び勇んで引き換えに行ったところ、領収書が必要だと言われたから2度ビックリ！ だって、テボンは領収書を本堂の賽銭箱に入れたそうだが、その賽銭箱は法会の時に信徒たちから集めた寄付金と共にボムシクたちが引きあげてしまっていたのだから。ここから始まる、賽銭箱争奪戦のドタバタ劇がこの映画最大の見モノだから、じっくりと楽しもう。

### 届け物はナニ……？ 第2作の謎解きは……？

第1作では老住職（キム・インムン）が出したナゾ解きが面白かったが、第2作ではナゾ解きがさらに深化……？ まず、チョンミョンが老菩薩に手渡した届け物は一体ナニ……？ それは、缶の中に入ったバラバラの数珠だが、これがどうもナゾ解きの解答らしい。老菩薩が出した問題は「数珠玉にも、缶にも触れず、数珠玉を缶に入れる」ことらしいが、チョンミョンが老住職からの解答を届けてきたというわけだ。

映画はラスト近くに至り、パク会長らに騙された多くのマンション購入者たちを含めた、僧侶軍団とヤクザ軍団との300億ウォンのロト宝くじの領収書をめぐる浅まし

い争奪戦が展開される。そこでチョンミンヨンが取った行動に注目だ！ さすが一流の修行僧と思える彼の行動は、欲の権化と化した人間たちを救うため、小さな領収書を1枚を2枚に、2枚を4枚に、4枚を8枚に、8枚を16枚にと細かく破ってしまったこと。空中高く舞い散った小さな紙切れを前に人々は落ち込んでしまったが、そこに登場したのが空き缶をもった童子僧。さて、童子僧はそこで一体ナニをするのだろうか……？

### 法的には建築基準法違反……？

私には第1作より第2作の方がお笑いのネタが面白く、かつ展開もスピーディと感じたから、第2作の方が星が1つ上。こんなコメディ映画のラストはハッピーエンドと相場が決まっているはず。しかし、僧侶軍団にもヤクザ軍団にもそしてマンション購入者にもハッピーエンドとなるためにどんな結末が用意されているのだろうか……？

映画のラストシーンは、それから1年後のクリスマスの頃。なぜかまだ無心寺は残っており、そこに住む童子僧へのクリスマスプレゼントを持ったボムシクたちがやってきていた。すると、ドリーム・シティの完成はまだ……？ 誰もが一瞬そう思うはずだが、カメラが少しずつ引いていくとそこに登場する風景は……？

これって法的には建築基準法違反ではないかと思える風景だが、コメディ映画にそんな四角四面な理屈をもち出すのは野暮というもの……。

2008(平成20)年3月11日記



達磨と、ソウルに行こう！



DVD 発売中、価格：¥5,040(税込)、販売元：エスピーオー